

リベラル鈴鹿 板倉 操 議員

発達に課題を抱える児童の就学後について

(質問) 「長い間福祉の谷間で取り残されてきた」発達障がいへの支援は、平成28年の支援法の改正を経て、切れ目のない支援が具体化している。本市でも早期発見・早期支援のための5歳児健診が3年目を迎えるが、就学後も継続して集団適応を促す支援は保証されるのか、さまざまな障がいの特性に対してきめ

細かい支援は可能なのか、学校全体で発達障がいへの理解は進んでいるかなどの懸念がある。就学後の問題点として見えているものはあるか、把握しているか。

(答弁) 健診で10.9%の早期発見ができ、就学に向けての支援を始めている。就学後についても小学校と連携し、効果的な支援を実践していく。対応の増加が見込まれるが、専門家を含む教育相談事業の拡充もある。発達支援研修講座への教職員の参加も予想以上である。
その他の質問 ○財政調整基金を繰り入れての予算編成について

鈴鹿の風 平野 泰治 議員

子育て・子育て支援について

(質問) 子育て・子育て支援は、市の最重要課題としているが、次の2点を聞く。①ニーズに合わせた効果的なものとなっているのか。②必要な方に必要なときに届いているのか。

(答弁) 各種のアンケートや市長との懇談会、事業計画の外部評価、子育て支援総合コーディネーターによる調査などで、多様なニーズを

把握している。子ども政策部を中心に、子育て世代のライフステージに応じたサービスの充実に努めていきたい。国・県も含め支援策を必要な方に届けるため、あらゆる手段による情報発信に取り組んでいく。さらに、市内で子育て・子育て支援に取り組む企業や公益法人、NPOなど多様な主体との連携を深め、地域全体で子育て世代を応援する体制を整え、内外への情報発信に努め、子育てをしやすい市として選ばれることを目指す。

その他の質問 ○行財政運営について

鈴鹿の風 中西 大輔 議員

農村環境改善センターについて

(質問) 都市マスタープランに沿い、農村環境改善センターと西部体育館を統合した再整備を総合計画の後期計画に位置付けてはどうか。国に、「予算による支援措置」、「税制による支援措置」、「金融による支援措置」、「情報による支援措置」が考えられている地域未来投資促進法があるが、活用できるか。県との

関係、課題は。

(答弁) 農村環境改善センターや西部体育館なども老朽化している。都市マスタープランは土地利用の可能性を示したものであり、今すぐに事業を進める区域と決まっていない。総合計画期間内に取り組むのは難しいが、スポーツ推進計画でスポーツ施設のあり方を検討する。活用には、県の基本計画のうち3つの要件を満たす必要がある。どのような施設整備を行うか、事業者選定などが課題である。

その他の質問 ○子ども食堂について

自由民主党 山中 智博 議員

ヘルプマークについて

(質問) ヘルプマークは、体の内部の病気や障がいなど、見た目では分からない困難を抱える方が支援を受けやすくなるよう、2012年に東京都が作成した。19都道府県が導入し(2月20日現在)三重県でも6月から提供開始の予定だが、本市での導入や啓発への考えは。

(答弁) 県ではヘルプマークの普及を目的に、

マークをデザインした「ヘルプカード」(図)の配布を2月から開始した。連絡先や必要な支援の内容を記入し携帯してもらうことで、災害や体調不良などの緊急時に、適切な支援が受けられることが期待される。カードは本市でも障がい福祉課や地区市民センターなどで配布しており、今後はマークの啓発にも努めたい。

その他の質問 ○先端技術の活用について

